北九州工業高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	国語ＡⅠ

科目基礎情報

科目番号	0017	科目区分	一般 / 必修
授業形態		単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	生産デザイン工学科（共通科目）	対象学年	1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	『現代の国語』（筑摩書房）、『言語文化』（筑摩書房）		
担当教員	木本 拓哉		

到達目標

１．論理的な文章を読み、構成や展開に基づいて論旨を理解し、要約することができる。
２．文学作品を読み、人物・情景・心情の描写などを味わい、その効果を説明できる。
３．短歌・俳句・現代詩の表現を学び、自ら創作できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	論理的な文章の構成・展開を正しく理解し、要約した上で、自分の意見を表すことができる。	論理的な文章の構成・展開を正しく理解し、要約できる。	論理的な文章の構成・展開を理解、要約することができない。
評価項目2	文学作品を読み、人物・情景・心情の描写などを味わい、その効果を説明できる。また、代表的な文学作品の日本文学史上における位置を理解できる。	文学作品を読み、人物・情景・心情の描写などを味わい、その効果を説明できる。	文学作品を読み、人物・情景・心情の描写などの効果を説明できない。
評価項目3	短歌・俳句・現代詩の表現を学び、熟語・ことわざ・慣用句などの知識を活用し、自ら創作できる。	短歌・俳句・現代詩の表現を学び、創作できる。	短歌・俳句・現代詩の表現を学び、創作することができない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 E① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。

教育方法等

概要	社会生活に必要な国語の理解能力・思考力・鑑賞力を養い、心情を豊かにして、言語活動の向上を図ることを目的とする。授業では現代文（参考として古文、漢文も含む）を読解することで、言語文化に対する関心を深め、多角的な視点で考える力を養う。また、語句学習・漢字学習を通して基本的な知識を身につけ、表現力・文章力を磨く。
授業の進め方・方法	次回学習する単元を予習してくること。配布するプリント類を整理すること。問いに対して簡潔明快な答えで応答すること。
注意点	辞書類・国語便覧を活用し、積極的に疑問を投げかけてほしい。

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業の目標と概要の説明。国語を学ぶ意義について述べることができる。
		2週	随想（１）ー随想を読む①ー	随想を読み、構成を説明できる。
		3週	随想（２）ー随想を読む②ー	随想を読み、筆者の主張・感じ方を説明できる。
		4週	随想（３）ー随想を読む③ー	筆者の考え、心情を正しく読み取り、文章を要約できる。
		5週	評論（１）ー評論文を読む①ー	評論全体を読み、要約できる。 第１段落の内容を説明できる。
		6週	評論（２）ー評論文を読む②ー	第２，第３段落の展開を説明できる。
		7週	評論（３）ー評論文を読む③ー	第４段落を読み、評論全体を通しての筆者の主張を説明できる。
		8週	中間試験	１～７週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を確認する。
	2ndQ	9週	短歌・俳句（１）ー短歌を読む①ー	試験の内容を理解し、不正解だったところはやり直しをして理解する。 近代短歌・俳句の概要を説明できる。
		10週	短歌・俳句（２）ー短歌を読む②ー	作品の鑑賞・読解を述べることができる。
		11週	短歌・俳句（３）ー短歌を詠むー	短歌を詠み・相互に鑑賞と評価ができる。
		12週	小説（１）ー小説を読む①ー	小説の作者と作品成立について説明できる。
		13週	小説（２）ー小説を読む②ー	小説の第１段落を読み時間、空間、人物について説明できる
		14週	小説（３）ー小説を読む③ー	第２～３段落を読み、登場人物の心理と小説の表現を捉え説明できる。
		15週	小説（４）ー小説を読む④ー	第３～４段落を読み、小説の主題を説明できる。
		16週	定期試験	９～１４週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	1	前5,前6,前7
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	1	前5,前6,前7

				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	1	前2,前3,前4
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	1	前2,前3,前4,前5,前6,前7
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	1	前2,前3,前4,前5,前6,前7
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	1	前2,前3,前4,前5,前6,前7
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	1	前2,前3,前4,前5,前6,前7
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	1	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	1	前5,前6,前7
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	1	前5,前6,前7
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	1	前5,前6,前7
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	1	前5,前6,前7
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	1	前5,前6,前7
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	1	前5,前6,前7
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	1	前5,前6,前7
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	1	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	1	前11,前15
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	1	前11,前15
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	1	前11,前15
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディーランゲージなど)。	1	前11,前15
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	1	前11,前15
				合意形成のために会話を成立させることができる。	1	前11,前15
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	1	前11,前15
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	1	前11,前15
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	1	前11,前15
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	1	前11,前15
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	1	前11,前15

評価割合

	試験	小テスト	演習・レポート	合計
総合評価割合	70	10	20	100
基礎的能力	50	10	20	80
専門的能力	20	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0